物語文を読んでえらぼう

小5／物語を読んで、人物の気持ちや理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　けん玉を よんで、健の気持ちの変化を1つえらびましょう。

けん玉を 買って もらった 健は、大皿に 玉を のせる 技を 三日で 覚えた。けれど 同じ 技ばかり くり返す うちに、あくびが 出る ように なり、だんだん 箱から 出さなく なった。ある日、兄が だまって 玉を くるりと 回し、けん先に すとんと さして 見せた。健は 目を 丸くし、次の 朝から また 毎日 けん玉を にぎった。

1. 同じ技ばかりであきていたが、兄にはげまされてまたやる気になった。
2. 技がうまくできず落ちこんでいたが、新しい技を見てまた夢中になった。
3. 技がうまくできず落ちこんでいたが、兄にはげまされてまたやる気になった。
4. 同じ技ばかりであきていたが、新しい技を見てまた夢中になった。

2　道案内を よんで、時計を見て声を上げたときの真央の気持ちを1つえらびましょう。

近所の おばあさんに 駅への 道を たずねられた 真央は、駅まで いっしょに 歩いて 案内した。おばあさんは 何度も 頭を 下げ、真央に あめを 一つ くれた。家に 帰ると、まだ だれも 帰って いなかった。時計を 見た 真央は、「あっ」と 声を 上げた。楽しみに して いた テレビ番組が、ちょうど 終わった ところだった。

1. 見たかった番組を見のがしたと気づいて、がっかりした。
2. おばあさんの役に立てたことを思い出して、うれしくなった。
3. 帰りがおそくなったので、家の人にしかられると思った。
4. おばあさんにもらったあめを、落としたと気づいてあわてた。

3　いとこの赤ちゃんを よんで、おばさんに声をかけられたときの陸の気持ちを1つえらびましょう。

陸は、生まれて 一か月の いとこを はじめて だっこした。思ったより ずっと 軽くて、やわらかい。赤ちゃんが 小さく 声を もらすと、陸は「泣かせたら どうしよう」と 息を 止めて、指一本 動かせなく なった。おばさんが「かわろうか」と 言うと、陸は 声を 出さずに、何度も 小さく うなずいた。

1. 泣かせないかと気が張りつめているが、まだかわりたくない気持ち。
2. 泣かせないかと気が張りつめていて、早くかわってほしい気持ち。
3. かわいくてむねがいっぱいで、まだかわりたくない気持ち。
4. うでがつかれてきたので、早くかわってほしい気持ち。

物語文を読んでえらぼう

小5／物語を読んで、人物の気持ちや理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　かくれんぼを よんで、顔を出したあとの美咲の気持ちを1つえらびましょう。

かくれんぼで、美咲は 物置の うらに かくれた。おにの 足音が 何度も 近づいては 遠ざかり、やがて だれも 来なく なった。夕方の チャイムが 鳴った とき、美咲が そっと 顔を 出すと、みんなは すな場で 別の 遊びを して いた。美咲は くすっと 笑って、小さく つぶやいた。「最後まで、見つからなかった」

1. 自分をさがさなかったみんなに、はらが立っている。
2. 長い間かくれていたので、早く家に帰りたくなった。
3. 見つからなかったのが、ひそかにほこらしい。
4. 自分をわすれて遊ぶみんなを見て、さびしくなった。

2　通学路を よんで、健太がパン屋の前で立ち止まるのはなぜですか。1つえらびましょう。

健太は 毎朝、通学路の とちゅうに ある パン屋の 前で 立ち止まる。やきたての パンの においが ただよって くるが、健太は 店の 中には 目も くれず、しゃがんで 入り口の 大きな 水がめを のぞきこむ。中では、カメが 一ぴき、首を のばして 健太を 見上げて いる。

1. 店にならぶ新しいパンを、たしかめたかったから。
2. やきたてのパンのにおいを、かぎたかったから。
3. 店の前で、友だちと待ち合わせをしているから。
4. 入り口の水がめにいるカメを、見たかったから。

3　最後の一問を よんで、そのときのあかりの様子を1つえらびましょう。

テストの 残り 時間が わずかに なった。最後の 一問が わからず、あかりの 手が 止まる。あきらめかけた そのとき、朝 読んだ 本の 一節が ふと 頭に うかんだ。あかりは いそいで えんぴつを 走らせた。

1. あきらめかけたが、朝友だちに聞いた話を思い出して書き始めた。
2. あきらめかけたが、本の一節を手がかりに答えを書き始めた。
3. あきらめかけたが、先生の言葉を思い出して答えを書き始めた。
4. あきらめかけたが、前の問題を見直して答えを書き始めた。

物語文を読んでえらぼう

小5／物語を読んで、人物の気持ちや理由を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　学級委員の選挙を よんで、そのときの大地の気持ちを1つえらびましょう。

学級委員の 選挙で、大地は 二票の 差で 落ちた。友だちが「おしかったね」と かたを たたくと、大地は「うん」と うなずきながら、かばんの 中の そろばんに 目を やり、ほっと 息を ついた。委員に なれば、毎週 木曜日の そろばん教室を 休まなければ ならなかったのだ。

1. 選挙に落ちたので、次こそ選ばれようと心に決めている。
2. 選挙には落ちたが、二票差まで追い上げたことに満足している。
3. 選挙には落ちたが、教室を休まずにすむので安心している。
4. 選挙に落ちたくやしさを、友だちの前ではかくしている。

2　夏の川を よんで、そのときのみくの様子を1つえらびましょう。

夏休み、みくは 祖父と 川で、石を 投げて 水面を はねさせる 遊びを した。祖父の 石は 七回も はねたが、みくの 石は 一回も はねずに、ぽちゃんと しずむ。それでも みくは、しずむ たびに おなかを かかえて 笑い、また 石を さがしに 走った。

1. うまくはねなくても、しずむのがおかしくて楽しんでいる。
2. うまくはねないので、祖父にこつを教わろうとしている。
3. うまくはねないので、祖父に負けまいとむきになっている。
4. うまくはねなくても、祖父の七回に感心して見とれている。

3　停電の夜を よんで、悠の気持ちの変化を1つえらびましょう。

夜、とつぜん 停電に なり、家じゅうが まっ暗に なった。悠は こわくて、母の そでを はなせなかった。父が ろうそくを ともし、家族で 小さな 火を かこんで 話して いると、悠は いつのまにか 自分から しりとりを 始めて いた。やがて 電気が つくと、悠は「えー、もう?」と 口を とがらせた。

1. はじめはこわかったが、ろうそくの火まで、あぶなく思えてきた。
2. はじめはこわかったが、電気がついたことで、やっと安心できた。
3. はじめから少しもこわがらず、まっ暗になったのを楽しんでいた。
4. はじめはこわかったが、電気がつくのが残念なほど楽しくなった。